

スポーツと体育の混用

Sports and Physical Education are used mix

1K05A209

指導教員

主査 倉石平先生

村井 友樹

副査 石井昌幸先生

<序章>

スポーツと体育が同義的に使われている現状がある。事実、日本体育協会は、「体育」という名称とは裏腹に、活動内容はスポーツに関することをおこなっているのである。さらに、名称の英語表記は、「Japan Sports Association」とされており、スポーツと体育が同義的に扱われているのである。そこで本論文は、第 1 章で先行研究をみていくことで、スポーツと体育が異なる存在であることを理解し、第 2 章で、スポーツと体育が混用されている現状を把握し、第 3 章と第 4 章で、なぜスポーツと体育が混用されるようになってしまったのかを明らかにすることを目的としている。

<第 1 章>

唐木、水野、佐藤の三人の先行研究をみていくことで、スポーツと体育の関係を調べた。唐木は、スポーツの概念の整理及び、歴史的な概念の変遷から、「体育・スポーツ」という連結語が用いられている理由を考察した。水野は、目的の違いによって、「スポーツ」と「体育」を区別した。佐藤は、哲学の立場から概念的把握を試み、「スポーツ」と「体育」を区別した。三人ともスポーツと体育は異なる存在であるとしている。そして、佐藤は、関数を用いて、論理的にスポーツと体育が異なる存在であると証明してくれた。

<第 2 章>

スポーツと体育の混用の一つの例として、5 校の体育大学と名称に「体育」が含まれている 13 学部の名称の英語表記について調べた。日本体育

大学の英語表記である「Nippon Sport Science University」や大阪体育大学の英語表記である「Osaka University of Health and Sport Sciences」のように、半数程度が、名称に「体育」を含んでいるにも関わらず、その英語表記として「Physical Education」ではなく「Sport」を使用していた。

<第 3 章>

日本における体育の歴史的変遷を調べた。1876(明治9)年には、「体育」という言葉が誕生し、体育の概念は「運動と衛生とを手段とした身体教育」とされていた。その後「体育」の概念は変化をし、衛生面の欠如により「運動を手段とした身体教育」となり、兵式体操の導入により「運動教育」となった。そして、徐々に教育的要素が欠如し、明治時代の終わり頃には、「運動」という概念に移行していったのである。

<第 4 章>

日本におけるスポーツの歴史的変遷を調べた。日本が開国をしたことにより、スポーツが移入されるようになった。スポーツが日本に移入した経路としては、軍事に伴う移入、外国人居留地からの移入、留学帰国者からの移入、学校教育からの移入の 4 つの経路があった。始めスポーツは、「遊戯」や「運動」という日本語で使われるようになった。だが「遊戯」や「運動」は、本来の「sport」の概念を示しきれなかった。その後スポーツは、1913(大正 2)年に、ようやく「スポーツ」という言葉が誕生する。「スポーツ」という言葉が誕生するまでは、

「スポーツ」は、「遊戯」と「運動」とされ続けていたのである。

＜結章＞

日本が開国をしたことにより、「スポーツ」と「体育」が始まった。始めスポーツは、「遊戯」や「運動」という日本語で使われていた。また、「体育」は明治時代の終わり頃には、「運動」という概念をもっていた。つまり、「スポーツ」が「運動」として使用されていた時期に、「体育」が「運動」という概念を持つことになったのである。よって、「スポー

ツ」と「体育」に対して、同じ「運動」という言葉や概念が用いられたため、スポーツと体育の混用が生じるようになったのである。

スポーツが体育の中に閉じ込められているままであると、スポーツの普及・発展に障害が生じてしまう。逆に、体育がスポーツだけに縛られているようでは、体育本来が有している身体教育にも影響が生じる。すなわち、スポーツと体育が異なる存在であると認め、スポーツと体育の混用を改めることが、「スポーツ」と「体育」の双方にとって有益で、必須なことなのである。